

会議議事摘録

会議名	2023年度第3回学校関係者評価委員会
開催日時	2024年2月25日(日曜日)10:00~12:00
場 所	本校7階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、黒田江里(保護者)、篠塚功(医療事務関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)、森川雅彦(高等学校関係者)(計6名)</p> <p>②学校：川口拓也(校長)、榑原幸之(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医療事務科学科長)、石澤雅子(医療秘書科副学科長・医療事務科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科学科長・診療情報管理科学科長)、結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科教員・教務委員長)、松田朗(介護福祉科学科長)、伊東由美(看護科学科長)、光本文仁(キャリアサポートセンター長)(計10名)</p> <p>③委員会事務局：土屋瑠美子、菅谷久美子、土方雄太(計3名)</p> <p>④オブザーバー：前野宣(経営企画室長、学生委員長)、宗像秀樹(広報室長)</p> <p>(参加者合計21名)</p>
欠席者	村上優海(くすり関連業界関係者)
配付資料	<p>事前送付資料：</p> <p>□資料1：2023年度第2回学校関係者評価委員会議事録、□資料2：2023年度第2回委員会以降の主な経過報告 別添A：2023年度進路決定状況、別添B：2023年度教員研修計画・実績、別添C：2024年度生入学前指導プログラム、別添D：2023年度後期授業アンケート集計結果、資料3：2023年度学校関係者評価報告書案</p> <p>当日配付・閲覧資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田速記医療福祉専門学校 中期計画(令和4年度から令和8年度) ・各学科の3ポリシー ・「病院事務職 今と未来」リーフレット
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>今年は元旦の能登地方の大地震に始まり、翌2日には羽田で大変な事故が起きた。心からお見舞い申し上げたい。</p> <p>社会的にも今までと違う流れが起きており、中でも人手不足は、医療福祉分野でも悲鳴に近い声が聞かれている。特に医事と医師事務の人材を供給してほしいという声が強。一方で、医療分野に入る学生が、高校生、キャリアチェンジ組ともに急減している。これは学校経営にとっても大問題であり、高校の先生、保護者向けのパンフレットを作って募集の促進に努めている。</p> <p>今年は、1年生の退学が目立っている。原因は複合的だが、例年に比べてメンタル系の弱さを感じる。本日は、その辺も含めて学校が取り組んでいることを説明し、先生方からご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（資料1参照）

委員長より前回議事録案について諮ったところ、委員から特段の訂正はなく、個人情報に配慮して公開することが承認された。

3. 前回委員会の質問への回答（当日資料参照）

事務局より、前々回及び前回の委員会において回答が保留となっていた件について、資料に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

4. 経過報告（資料2参照）

・2023年度第1回委員会以降の主な経過について

事務局長、キャリアサポートセンター長、教務委員長、委員会事務局より、資料2（別添A～Dを含む）に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2023年度学校関係者評価報告書の確認（資料3参照）

委員長より、前回委員会でいただいた総評を加えた報告書の最終確認を求めたところ、特段意見がなかったため、3月末に東京都に提出することが確認、了承された。

6. 意見交換など

委員からの質問・意見のほか、学科長からの情報提供を中心に意見交換を行った。詳細は別紙のとおり。

7. 2024年度委員について

事務局より、3月で任期満了となる委員には個別に相談させていただき、引き続きお願いできる方と任期が継続する委員については、4月以降、事務局から委嘱状を送ることが了承された。

8. 次回日程、その他

事務局より、新年度の第1回について日程調整に協力いただきたいとの説明があり、了承された。

以上

2023 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 前回委員会の質問への回答（当日資料参照）

○榊原事務局長、宗像広報室長、前野学生委員長、事務局土方より、当日資料に基づき報告が行われた。
（報告の詳細は省略）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>パンフレットは、私が要望した格調の高いものというより、明るく、きれいという印象を受けた。検定の取得、就職等のデータは、単年度の実績や全国平均値を示すなど、説得力のあるデータが欲しい。</p> <p>サポートが必要な学生への対応など、指導する側の声がかかっていると安心できる。</p> <p>教員向けガイダンスについては、施設や授業の様子を見たり、学校生活や就職等について直接先生方と相談できるとよい。</p> <p>学生相談コーナーを利用する人が少ないと感じたので、もう少し詳しく知りたい。</p> <p>中期計画に具体的な数字がないので、評価できない。ある程度数値で捉えられるようにしたほうが進捗管理もしやすいと思う。</p> <p>退学について、1年生がどのタイミングで申し出ていて、その理由に学業不振が絡んでいるかいないかの感触を伺いたい。</p>	<p>相談件数については、いきなりカウンセラーに相談に行く学生は少ない。担任、保健室、カウンセラーが連携して行っているため、実際はもっと多い。</p> <p>中期計画は文部科学省のひな型に基づいており、入口、出口、財務まで落とし込んでいるものは単年度の事業計画になる。結果は年度末の事業報告で示されるので、当然数値には紐づいている。</p> <p>早い時期の学生が意外に多い。前期の試験、後期が始まったころなど、壁にぶつかるころ、これから壁が来るところでの退学者が目立つ。</p> <p>学業不振に関しては主な理由には挙げていないが、進路不適應によって退学につながったケースもあると思う。</p> <p>同じく早い時期での退学の申し出が多かった。入学時の面談で、中学は不登校、高校は通信制という学生もいる。心身ともに健康で元気な学生が突然やめたいと言ってくるケースはほとんどない。</p> <p>前期は体調不良、メンタル面の不調、後期は進路変更が理由である。</p>

<p>介護福祉科以外は、休学者はいなかったのか。</p>	<p>年度初めに休学者がいた。今、復学に向けて準備しており、次年度から復学する手続きが進んでいる。</p> <p>一身上の都合。2・3年生に関しては、腹をくくって頑張るという声が多かった。</p> <p>医療秘書科もいる。次年度から1年に復学する手続きが進んでいる。</p>
------------------------------	---

次第4. 経過報告（資料2参照）

・2023年度第2回委員会以降の主な経過について

○榊原事務局長、光本キャリアサポートセンター長、渋谷教務委員長、事務局土屋より、資料2（別添A～Dを含む）に基づき報告が行われた。（報告の詳細は省略）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>医療事務系で契約社員を選ぶ学生が一定数いる理由を教えてください。</p>	<p>契約職員を推奨しているわけではないが、事務職員は契約でしか採らない病院もある。</p>
<p>その病院にこだわる理由はどこにあるのか。</p>	<p>小さいころからの憧れ、ネームバリュー、給与体系・福利厚生がほぼ職員と変わらないこと等が考えられる。</p>
<p>契約社員は5年で切られてしまうので、正職員になる可能性がないのであれば選ばないように指導してほしい。</p>	<p>正職員への転換制度がある。 卒業生の中にも実績があり、学生にも重々分かった上で受験を勧めている。</p>
<p>美容系にも就職者が出ているようだが、以前、裁判沙汰を起こした美容外科もある。その辺は大丈夫か。</p>	<p>事務系だけでなく、看護でもいきなり美容系を希望する者もいる。キャリア的には一般病院でナースとしての研修を受けたほうがよいと指導しているが、憧れが強く、止めるのは難しい。</p>
<p>本人が行きたいところに就職するのは致し方ないが、看護としては、就職後3年で一人前になるように教育プログラムを作っている。キャリアを積んでほしいので、あまり美容外科に流れないほうがよいと思う。</p>	<p>クレームも多い領域なので、華やかさの裏に潜んでいるものをよく考えて仕事をするよう指導している。</p>

<p>看護も大学が増えてきているので大変ではないか。</p> <p>指定校や訪問した学校からの応募者はどうか。</p> <p>国試の合格率が全国平均を上回るとか、しっかりとした病院への就職等の実績を見せられれば、専門学校のメリット（学費が安い、早く現場に出て経験が積める）を強調して勧められる。</p> <p>学力だけでなく、モチベーションや資質の高い学生を採ることが大事。推薦書に学校での活動の様子、性格など、いろいろな情報を書いてもらうとよい。入学前の教育も、レベルをきちんと合わせることも大事だと思う。</p> <p>学校求人以外のところに就職した学生は、SNSなどの情報から自分で探してくるのか。</p> <p>介護福祉科の出願者が増えている要因は何か。</p> <p>昨年までは、介護福祉士の派遣はすぐ決まり、看護師はなかなか決まらなかったのが、今年は全く逆になっている。介護系の事業者に対する特定技能の返還で、求人が増えている状況も顕著に見えている。</p>	<p>大学であれば集まるというわけでもない。人気の高かった都立看護が2倍を切ったのは象徴的かと思う。社会人のキャリアチェンジ組はあまり影響を受けていないので、高校生が減っている。</p> <p>本校は重点校として設定している高校との結びつきが強いが、今年はそこからの入学者が減っている。今まで緩やかに減っていた18歳人口が大きく減る年であり、大学志向が強かったところもあるかと思う。</p> <p>特に多摩地区が大学に行く人が増えた。専門学校という選択肢があることを先生方にも知っていただきたい。</p> <p>合格率には既卒者も入る。その人たちへの支援も工夫が必要かと思う。</p> <p>SNSの情報だけでは心配で相談に来るケースが多い。担任や講師、キャリアサポートセンターと情報を共有しながら対応している。</p> <p>キャリアサポートセンターでは、本人の居住地や希望の分野を踏まえて開拓している。</p> <p>募集に関しては、外国人留学生の出願が増えた。学校を挙げて日本語学校に周知活動を行ったことが大きな要因かと思う。</p>
---	--

業務多忙の中、教員研修の実績が昨年より増えていることはすばらしいと思う。	
--------------------------------------	--

次第6. 意見交換など

○委員からの質問・意見、情報提供は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答及び各学科からの情報提供
<p>□内部研修はどのようにされているか。</p> <p>診療報酬改定の勉強会をするという話があったが、卒業生との関係をつくるのは大事だと思う。卒業生からの報告制度があるかどうか確認したい。</p> <p>各学科から1年間のトピックス的な情報を披露していただきたい。</p>	<p>□資料2-Bの中に含まれている。教務委員会、事務局で必要と思われる研修を実施し、内容を共有している。</p> <p>今年は3回行った。そのほかには、教務課程研修に教員を出し、学科ごとにOJT的な研修を行っている。</p> <p>卒業生ネットワークは少し弱いので、強化していきたい。</p> <p>【医療秘書科】</p> <p>1年生を対象に行っていた病院見学が復活した。病院内をくまなく見学させていただき、学生は病院の匂いや雰囲気を体感し、よい学びになった。</p> <p>終了後のアンケートでは、「病院内の組織、医療事務の役割、仕事内容が分かってよかった」、「大学病院は専門学校生を採らないと思っていたし、自信もなかったが、就職先として視野に入れたい」等の感想があった。</p> <p>秘書技能検定で文部科学大臣賞（団体の部）を受賞した。これを募集に生かせるようにしていきたい。</p> <p>【診療情報管理科】</p> <p>去年、2年生で退学者が出たことを踏まえ、今年の2年生には新しい目標を設定したり、丁寧に寄り添って対応した結果、退学希望の学生は出ていない。</p> <p>オンライン、オンデマンド、アプリなどを試しながら、指導に努めている。</p> <p>管理士の資格もそうだが、がん登録、医療情報技師など、社会人でも難しい資格試験に挑戦し、成果は出ている。</p> <p>卒業生からキャリアアップや学生時代に取れなかった資格取得などの相談があり、アプリや資料を提供するなどのやり取りが多くあった。</p>

【くすり・調剤事務科】

対面でのイベントが再開できるようになり、救命講習への参加、ドラッグストアショーの見学などを行った。

実習先を変更した後の初めての実習がほぼ終わった。ドラッグストア部門では、店長の体験をしたり、さまざまな部署の方の話を聞くなど、楽しそうに職業の体験をしていた。調剤事務の部門では、介護施設や個人宅への配薬業務を見学するなど、貴重な体験の機会となった。

【介護福祉科】

秋に行われている国際福祉機器展に1年生が全員参加した。

今年度新たに、グループホームでの介護実習と地域社会との連携の第一歩が始まった。職業教育の核となる実習先を増やしていきたい。

看護科との合同授業が12月に初めて実現した。

【看護科】

介護福祉科との合同授業は実現まで長くかかったが、「キャリアデザイン」という科目を立ち上げて、やっとなることができた。新カリでうたっている多職種連携は単科の看護学校では難しい。本校の強みを生かす取組になる。

学ぶ課程に差があるので、分かりやすいテーマとして「褥瘡」を取り上げ、グループワークを行った。アンケートには、「お互いの職種のことが分かってよかった」、「もっとやりたかった」という感想があった。

課題としては、互いのカリキュラムの中で時間を確保することが難しく、グループでの発表と意見交換が取れなかった。

介護の学生は福祉の道具を熟知し、生活の視点で利用者とどう関われるかを大切にしており、それに看護の学生が医療の知識や視点を持ってすり合わせていくなど、1回目としてはよい取組ができたと思う。今後は、お互いの職種の価値観を知ることにかけて、取り組んでいきたい。

以上